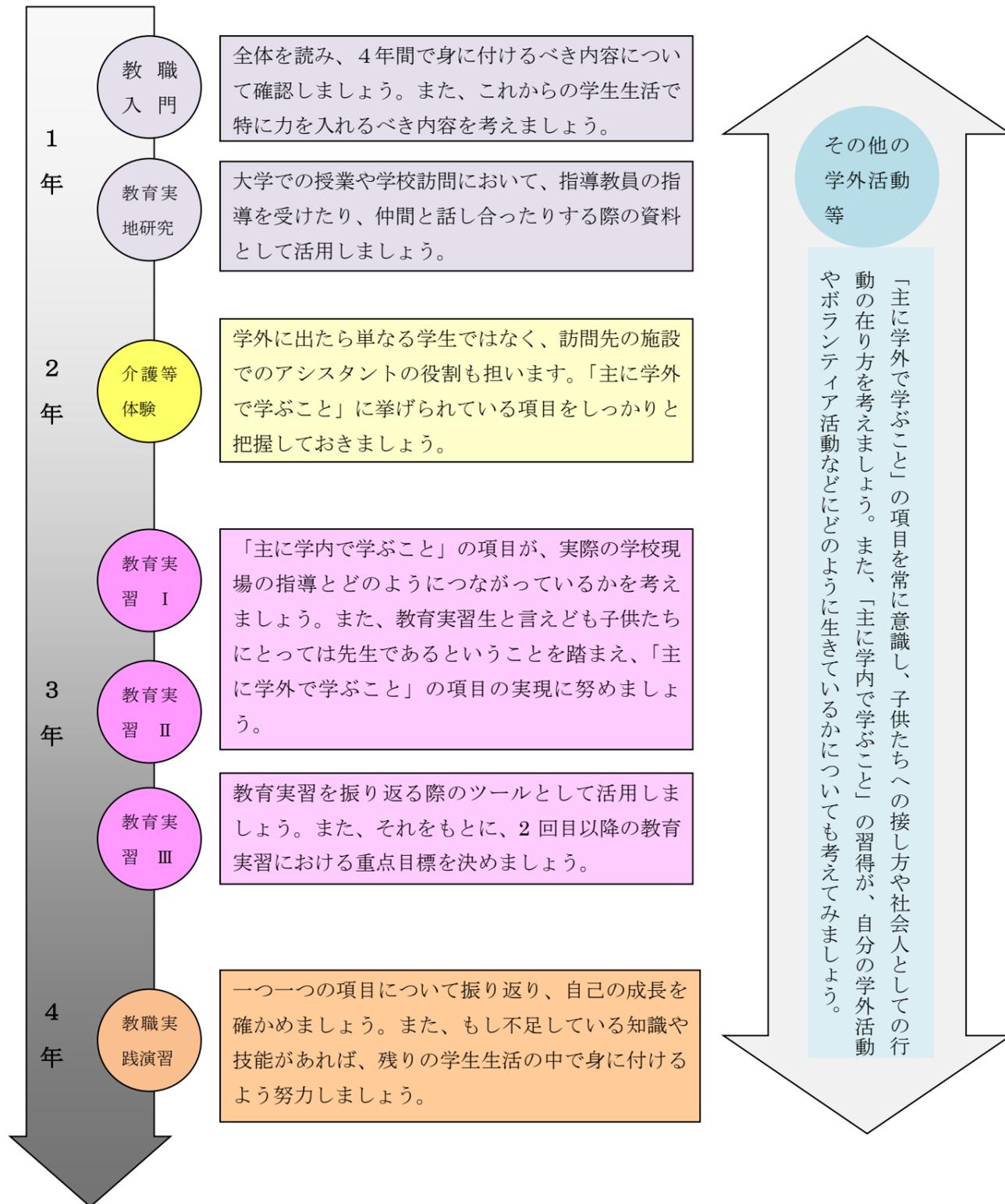


主に学外での学習の関連を示した構成図



1. 横浜国立大学教員養成スタンダードとは

横浜国立大学において教職をめざして学ぶ皆さんが、卒業時まで身に付けておくべき資質・能力を、評価規準の形で示したものです。

2. 横浜国立大学教員養成スタンダードの構成

横浜国立大学教員養成スタンダードは、「教師に求められる基盤的資質」「教職に関する知識・理解」「教科等の指導と評価」「児童生徒指導」の4領域33観点で構成されています。

それぞれの観点の中での項目は、「主に学内で学ぶこと」(19項目)と、教育実習や学外活動等で学ぶ「主に学外で学ぶこと」(16項目)に分けて示してあります。なお、11項目については両方の場で育成することが望ましいことから、分けずに示してあります。

3. 横浜国立大学教員養成スタンダードの活用

横浜国立大学教員養成スタンダードは、以下のように活用することを想定して作成されています。

①学びの焦点化を図るためのツールとして活用する

このスタンダードには教師が身に付けておくべき資質・能力が多面的に掲げられています。どれも大切なものですが、その中でも特に学生時代に重点的に学びたい項目を選び、その実現に努めていきましょう。

②省察のためのツールとして活用する

自分の学びを振り返り、向上を確かめたり課題を見つけたりするために活用しましょう。特に教育実習や教育ボランティアの場においては、日々このスタンダードに立ち返り、自らの行動の在り方や授業実践などを振り返り、課題を見つけて改善していきましょう。

③自己の成長課題を発見するためのツールとして活用する

大学での授業や教育実習での生徒指導や授業実践などについて、指導教員や他の学生と話し合ったり、評価や助言を受けたりする際の資料として活用しましょう。自分の良さを知り、課題を自覚することがさらなる成長につながります。

④学習成果物の評価規準として活用する

授業において作成したレポートや論文、教育実習での指導案や記録ビデオなどの学習成果物を自己評価する際の評価規準としても活用できます。また、指導教員や学生からの評価やコメントをこのスタンダードと対照してみることで、学びの一層の深まりも期待できます。

領域	観点	項目	
		A 主に学内で学ぶこと	B 主に学外で学ぶこと
I 教師に求められる 基盤的資質	(1) 社会人としての態度・行動	進んで挨拶し、正しい言葉遣いで話すとともに、服装や身だしなみにも気を配っている	
	(2) 教職への熱意	教師になりたいという意欲を持ち、その使命と職務内容、子供に対する責務を理解しようとしている	
	(3) コミュニケーション	自己を積極的に表現するとともに、他者の言葉を共感的に理解しようとしている	
	(4) 組織人としての自覚	学校運営は教職員全員で行うということを理解し、他の教職員と連携、協働して職務を遂行することができる	
	(5) 連携・協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解している	
	(6) 省察	常に自分の学びを振り返り、課題を見つけて改善しようとしている	自分自身の行動や子供への指導を振り返り、進んで助言を求めるとともに、それを生かして、さらなる向上をめざしている
	(7) コンプライアンス	法令（著作権・個人情報保護など）や規則を遵守することの重要性を理解している	社会や学校等のルールを守り、子供たちの規範となるよう努力している
	(8) 健康管理	生活習慣を正しくし、心身の健康維持に努めている	
II 教職に関する知識・理解	(1) 教育関連法規	教育基本法や学校教育法など、主な教育関連法規の趣旨や内容のおおよそについて理解している	
	(2) 学習指導要領	学習指導要領の趣旨や目標、内容のおおよそについて理解している	
	(3) 教育課程	各学校において教育課程の編成・実施・評価・改善を行うことの大切さを理解している	具体的な学校の教育課程について理解しようとしている
	(4) 教科等の指導	教科等の目標、学習内容の系統性、学年間のつながり等について理解するとともに、効果的な指導法について考えている	
	(5) 学習評価	学習評価の役割や方法、指導と評価の一体化の重要性について理解している	
	(6) 現代的な諸課題	社会の変化に対応する課題（グローバル化、情報化、ESD等）や教育改革の動向について関心を深め、考えようとしている	学外活動を通して、現代的な諸活動に対する諸機関の取組を理解しようとしている

領域	観点	項目		
		A 主に学内で学ぶこと	B 主に学外で学ぶこと	
III 教科等の指導と評価	(1) 学習指導の方向性の理解	主体的・協働的に学ぶことが求められていることなど、これからの授業づくりの方向性について考えている		
	(2) 学習指導案の作成	学習指導案を作成する意義や、その具体的な方法について理解し、簡単な学習指導案を作成することができる	子供たちの学習状況や興味関心を考慮した学習指導案を作成し、指導を受けて修正することができる	
	(3) 教材の準備活用	学習のねらいに応じた教材作成の重要性を理解している	目標の実現に有効と思われる教材・教具を選定し、効果的に活用することができる	
	(4) ICTの活用	教科指導におけるICT活用・情報教育について理解している	ICT機器を授業等の場で活用することができる	
	(5) 授業実践	模擬授業を通して、教師としての表現力を高めたり、発問や板書等のスキルを高めたりしている	授業のねらいや子供の反応などに留意しながら授業を行うことができる	
	(6) 授業観察		他者の授業に対し、よさと課題、改善の方法などを意識しながら、マナーを守って参観することができる	
	(7) 授業評価	授業評価の意義や方法について理解している	自他の授業について、学力の育成、子供たちへの関わり方等の観点で評価することができる	
	(8) 授業における学習評価	教科等に応じた評価規準の設定の仕方を理解している	評価規準に基づいて子供の学習の表れを捉え、評価することができる	
IV 児童生徒指導	(1) 発達の段階の理解	子供たちの発達の段階と、その特徴について理解している		
	(2) 子供への接し方	公平で受容的な態度で一人一人の子供に接し、相互理解を深めようとしている		
	(3) 問題行動への対応	子供たちの問題行動の背景について多面的に捉える必要のあることを理解している	問題行動を発見したらすぐに周囲の教師等に連絡・報告・相談し、適切な指導を行うことができる	
	(4) 教育相談	教育相談の重要性を理解し、理論や技法に関する基礎的な知識を持っている		
	(5) 特別支援教育	特別支援教育の意義や、子供たちの障害に応じた指導の在り方について理解している	特別な支援を必要とする子供に対し、専門家のアドバイスを受けながら個に応じた指導を行うことができる	
	(6) 人権尊重教育	いじめ・差別・不登校や体罰など、子供たちの人権にかかわる諸問題への危機意識を高め、校内組織や関係機関と連携して指導することの大切さを理解している		
	(7) キャリア教育	キャリア教育の意義や、指導方法に関する知識をもっている		
	(8) 安全教育	校外学習における安全指導の重要性や、アレルギー等を含む日常生活全般における安全確保のために必要な事項を理解している		
	(9) 学級担任の職務	学級担任の役割や大まかな仕事内容について理解している		
	(10) 学級経営の理解	学級経営の大切さや、学級経営案作成の意義について理解している	子供たちとの間に信頼関係を築き、学級集団をまとめるよう努力している	
	(11) 教室環境整備	教室掲示や座席配置の工夫など、子供たちが学びやすく過ごしやすい教室環境を整えることの大切さを理解している		